

言葉の力

今年度も、コロナ禍という厳しい状況にもかかわらず、昨年度に次ぐ総数二万八千五百二十八点というたくさんのご応募いただきました。心より感謝申し上げます。

今年のテーマは「壁」でした。応募作品を拝見しますと、小学生からお年寄りの方まで、それぞれの壁が綴られていました。そして、それらの壁は、乗り越えなければいけない強固な障害物だったり、人と人、人と社会を隔てる分厚い壁でした。

幸いにも、ほとんどの方々の壁は、ご本人たちの強靱な努力や粘り強さによって、乗り越えられてゆきました。ただ、一人の人間の力には限りがあります。そうした中、どうしても分厚い壁の力に負けそうになった時、くじけそうになった時、それらの方々を支えたのは、たとえば、サークルの先輩のひと言や、担任の先生あるいはご両親などがかけてくれた励ましの言葉でした。それらの言葉が、壁を乗り越えるきつかけとなり、また大きな支えと

なったという作品が数多く見受けられました。

言葉は目に見えない、不確かな、そして頼りない存在に思われがちです。言葉をかけたくらいで、どうにもなるものではないと考えがちです。しかし、みなさんの文章を拝見して、今回もまた大きな「言葉の力」を確信することができました。

今、私たち人類にも、コロナ禍という大きな壁がただただかっけています。この壁を克服するには、医療や政治、経済など、さまざま対応が必要です。そうした中、欠かさないもののひとつが、「言葉の力」ではないでしょうか。「言葉」によって、互いの非日常の苦労を思いやり、また励まし合ってこそ、このコロナの大きな壁を乗り越える勇気や希望がもたらされるのだと思います。

来年もまた、みなさまからの「言葉の力」を感じさせてくれる、たくさん作品が寄せられることを期待しております。

一般社団法人言の葉協会 代表理事 佐藤典司